

平成28年度

第1回上田市総合教育会議(平成28年5月20日) 議事録

1 開会

2 母袋市長あいさつ

今年度第一回目の総合教育会議ということでございまして、小林教育長はじめ皆様には大変お疲れ様でございます。

昨年度において国の法改正があり、総合教育会議を設置するというをいたしまして、教育委員会と市長部局がしっかりとタッグを組みながら教育の課題、またあるべき姿も共有しながら教育施策の推進についてこれまで議論を重ねてまいりました。その結果、上田市教育大綱を策定することが出来まして大変嬉しく思っています。大綱の中身は御案内のとおりですが、この大綱の持つ意味合いは大変大きなものがあり、上田市の特徴が教育理念の中に盛り込まれていると思っています。とにかく教育ということになりますと人づくりが一番の大きなテーマということにもなりますので、人づくりに更に市長部局も一生懸命取り組んでまいりたいと思います。併せて策定した第二期の教育支援プランですが、これも第一期に続きその成果を踏まえ、また検証もしながら第二期の教育支援プランが策定できたところであります。これらも当然情報共有を円滑にしながら進むべき方向性を共有し、相互に確認する場にもなっていると思います。

そして、これから進めていく事業につきましては、かねがね申し上げておりましたとおり、教育の取り組みについては「見える化」をいっそう進めたいと思っています。そうした中で本年いよいよ地方創生の取り組みも本格化してまいります。人づくり、人材育成におきまして地方創生という視点からも取り組んでまいりたいと思っています。地方での特色ある教育を展開することによって、人をつくり未来を築き、そして地域全体に活力を生むとの考えのもと、引き続き地方創生に取り組んでまいっている所存です。

この教育推進会議という場におきまして、市長部局と教育委員会が新たな着眼点と発想のもと、子どもからお年寄りまで市民全てにより良い教育環境が作り出されていくこと、そして教育に関わる文化、またはスポーツを通じて上田市全体の活力がより高まっていくことも期待しているところです。

以上、私からのあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 小林教育長あいさつ

昨年度、総合教育会議が開かれ教育委員会といたしましても、例えば教育支援プランの策定ですとか、給食に関する今後の方向性など様々な面で総合教育会議を通じて市長部局と一緒に考えのもと施策を進めることができたと感じており、新しい教育委員会制度の大きな成果であると認識しているところでございます。本日午前中でございますけど、ことぶき大学の1年生の最初の講話がございまして、新しくなりました上田市の教育支援プランを皆

様にお配りして紹介するとともに、私の経験の中で、上田市の話ではございませんけれど、市長部局と教育委員会の間で重大な齟齬が生じたときの困難さと、逆に方向を共有することで思わぬ発展を遂げたというような話をさせていただいたところです。

本年の第一回の会議ということではありますが教育委員会といたしましても差し迫った課題もございます。昨年度同様に実り多い総合教育会議となりますよう簡単でございますがあいさついたします。

西入政策企画部長

委員の変更もありましたので、これまでの総合教育会議の経過等について申し上げます。

総合教育会議は、教育行政に係る政策課題を市長と教育委員会が対等の立場で協議をする中で解決に向けた方向性や考え方を共有する場との位置づけです。

昨年度は、教育大綱の策定とともに、長年の懸念となっていた、学校給食の運営方針、学校教育分野における実行計画となる「第二期上田市教育支援プラン」について重点的に協議いただき、この場での合意を得まして、教育委員会において正式に決定をしたということです。

中長期的な視点で協議が必要と捉える、少子高齢化による人口減少に対応した学校の小規模化への対応や教育委員会組織のあり方なども議題項目に挙がっていましたが、継続協議となっているところです。

4 会議事項

(1) 教育大綱推進に向けた分野別施策の展開について

中村教育次長

資料1により説明

- ・学校教育分野
- ・生涯学習・スポーツ分野
- ・文化芸術分野

寺島委員

大綱の施策の展開について説明いただきました。これからこうするという意気込みはわかりますが、実施する事業を今年度や来年度、再来年度にかけて、こうしますというようなことが多いので、「検討することが28年度の仕事なんですか」と思ってしまう。

今年度に、具体的な事業を進めることがないと、先送りされてしまうと思います。そうすると、初年度は検討する事項で、まん中のところは継続で、最後は振り返りだと、そういうパターンの繰り返しになってしまうので、PDCA による検証をしていくことが必要です。昨年度末に教育大綱ができましたけれど、今何を議論するのかコメントしにくい。

西入政策企画部長

中身が大事だということですね、具体的な。

寺島委員

例えば、「幼保小中高大連携」で、昨年までは「幼保小中」だった。ここに「高大」という連携が入ることになった。連携事業の出前講座のイメージは分かりますが、どのような連携かが正直わからないので、どうすればいいんですかと思ってしまう。受ける側の幼保は別にして、小中の場合、小中ではどういったニーズがあるのかというところをもう少し掘り下げないといけないし、逆に高校、大学側では「こういうことができます」ということが煮詰まっていないと実際にマッチングしないのではないかと感じる。

それと、大学側は教授の皆さんが出前講座をされるのか、あるいは学生の皆さんが子ども達に近いことからより親しみやすく教えることができたり、特に小学生の場合授業というよりも遊びながら先生とは違った立場で接するのか、教授の皆さんが何か特別なこと、例えば実験のようなことをして教えてくれるのか、最終的には学校教育ですから子どものためになれば良いわけで、必ずしも子どもを対象としたものでなくて、大学の教授の皆さんが小中学校の教職員の皆さんを対象にした、いろいろなプログラムを組んでいただいて、教職員がそこから得たもので子ども達に関わり、結果的に子ども達が成長していけば良いということもあると思うので、提供側は誰を対象とするのか、受け側はどちらが良いのか、この辺の組み合わせのところをもう少し具体的な話がほしいと思います。

西入政策企画部長

4大学連携については、政策企画課で担当しており、まちなかキャンパスというのを今回つくっています。現段階ではまだ具体的にどういうものを見せられるか大学側と詰めているところです。

寺島委員さんから発言がありましたように、小・中学校のニーズと大学が何を出来るのかということのマッチングもこれから少し時間をかけてやっていきたいというのが28年度です。

実際に学生が小学校へ行って子ども達と何か一緒にやる、学校の先生がやる、専門的な分野については大学の先生が小中学校の先生方に対して研修をやるとか、いろんなアプローチがありますので、それも含めてどういったものが学校にニーズがあるかということをお互いに理解ができるような場を設けて、双方にメリットあるような形でできたらいいなと思っています。

寺島委員

信州型コミニティースクールが言われていますが、27年度までに小学校12校、中学校6校と、32年度までに全校を指定しましょうと数字で表しています。それは良いと思うんですが、実際に先行して取り組んでいるところがあるので、先行してところが具体的にどんな取り組みをして、こんな効果があったというような実際の評価が出されていません。

最初10校だったのが、12校になった18校になったと数が増えることが本当にコミニティースクールが推進されているのか、数を増やすことよりは、その取り組みの内容が重要で、どんなふうに取り組んで実際に保護者や子どもにどういうふうに関わっているのかということを検証していかないと、見える化にならないと思う。

取り組んだ数の見える化ではなくて、取り組んでいる内容の見える化も入っていったほうがいいのではないかと。新しいものは追加しても良いけど既に実行しているところのカタチをもう少し見せていかないと、スローガンとして挙げたままで終わってしまうというような感じがします。

中村教育次長

今の発言のとおり、ただ 50%、100%にするというのは数値目標としてあるのですが、取り組んでいる内容も大切だということで、今現在実施している半分の学校についても様々な取り組みがあるので、特に今年度にかけて取り組みがどんな成果を挙げたのかというものを併せて検討したいと思います。

例えば一つの学校では、地域の方が学校に入って協力していただき、学校の空き教室を活用して休み時間に様々なことをやっていただいております。教室に入れなかった子どもが、休み時間だけでも遊びに来て他の子どもと遊ぶという成果も出ています。そうした成果なども踏まえて考えてまいりたいと思います。

城下委員

教育大綱の分野別施策の展開というところでご説明いただきました。特に資料1の1枚目のところは大綱というより支援プランの施策の展開ということで拝見させていただきました。教育委員会のテリトリーが広いので進捗状況を先ほどからお話がありましたように「見える化」をしていくことが大事だと思っております。新しい第二期上田市教育支援プラン、第一期と何が一番違うかなと見たときに、皆さんもご苦労頂いたとおり数値目標をうたっているわけです。

実際目標を数値化したことで、どれだけの進展また、後退もあると思いますけど、そういうところをきちんと数値で見えるところは計っていくということが必要だと思います。今まで感覚的に進めて教育の分野は数値で追えない部分が多いからと言って、感覚で決め込んできたところが多くあったような気がします。例えば、先生を増やせば学力は上がるのかといったときに、それをきちんと数値として検証したのかという質問があったとすると、先生だけ増やせば学力が上がったというところの数値は証明されていないなら、それは先生を単に増やせば良いという問題ではないでしょうし、そういったところを数値化しておいて尚且つ費用をかけることで、費用対効果があるのかというところを検証しながら進めていかないと、ただ無駄になってしまうので、気をつけていかなければなりません。

先ほど寺島委員もおっしゃいましたが、手段ばかり並べるのではなく、目的としたことに対してそれだけ成果が上がっているのかというところをきちんと数値で見ると。数値で見られないところもどうなっているのかきちんと検証していくことが大事だと思います。

もう1点は、キーワード的には先ほどの見える化が一つで、もう一つは連携という言葉がこれの中に沢山盛り込まれています。確かに連携は大事ですし市長部局との連携をすることで大きな施策が展開していくわけですけど、連携を連呼するだけでなく、いつ、どこで、どこの誰とどのように連携していつまでにどのようにという「5W1H」でそういうところを具体的にきちんと決め込んで、尚且つ紙に記録して、誰が見ても、例えばA3の紙を一枚見れば時系列でここまでこういう事がなされて、ここと連携してこの時にはこっちと連携してというのが見えるようなフォーマットを作っていただくとわかりやすく良いのではないかなという気がしています。

2枚目は、文化芸術はとても苦手なので、先ほどもスポーツと文化と教育の融合という大きなことをおっしゃったので、そこまでは私のほうでは考えが及んでないですから、この辺に関しては勉強して自分ひとりが置いてきぼりになりそうなので、私たちも一緒に勉強していくことも含めいろいろ提供していただければと感じました。

北沢委員

教育大綱という分野別の施策事業のすべてを網羅してここに出ているのではなく、重点

的に取り組むものが出ていますと認識しています。もっと大きな単位で考えていくと、この大綱は教育支援プランですが、これらの施策が子どもの健やかな成長につながり、本当に子どものためになっていることが大前提だと思います。言葉を変えれば子どものためになっている、学校のためになっている、現場の先生方も素晴らしい支援をしていただいている、というように感じているというのが大事と思っています。

更に言うと、そういう素晴らしい施策をしている事業をしていると、素晴らしい人が育つんだと、上田市は素晴らしい教育行政をしているんだと、その上田市の魅力の一つの項目に上田市の教育行政があってほしい。そういうふうに結果的にさせていただくと私は素晴らしいなと思っています。

最近少子高齢化という言葉よりも人口減少社会という言葉が聞くようになって、20年後30年後には村や町が消えていくんだと、村や町が消えれば学校が消えて子どもがいなくなってしまう。そう考えていくと上田市の人口がこれから20年先、30年先どうなっていくか、そういうものは出ているので人口増加はともかくとして、人口の減少に歯止めをかけるとか維持するという、こういうことで考えていくと魅力あるまちづくりはとても大事だと思います。魅力あるまちづくりの中の一つの項目として、私は魅力ある人づくり、魅力ある学校づくりがあるのだと思います。そういう観点で上田市が注目されるようになってくると非常に素晴らしいなと思っています。

例えば上田市の学校で学ぶと学力が定着するだとか、上田市の小学校、中学校って非常に学力定着向上に力を入れているんだとか。例えば特別支援教育で発達障がいを抱えているお子さんがいれば、上田市の小中学校では手厚く扱ってくれている、そういうことが評判になっていくと上田市の魅力の一つの項目になるのではと思います。

「燦と輝く上田の未来を紡ぐ人づくり」その人づくりですから、こういうことが上田市の教育行政、学校づくり、素晴らしい子どもたちに繋がっていくのだということが前提にあってほしいと思っています。

例えば1枚目の学力定着向上の1ですけど、取り組み内容が書いてありますが、家庭学習ということに焦点を絞って書かれています。学力の定着・向上というには家庭学習の定着を図れば学力が付くとイコールではないので一つの項目としてはこういう事は結構ですし、それをどういうふうにやっていくんだというのは施策の展開で、支援プランに詳しく書いてあると思っています。学習ノートが出来たら終わりですよ、そういうことでは私はないと思う。学習ノートが出来たら家庭学習の内容を学校でどういうふうに各学校で取り組んでいくのかとか、家庭学習の内容を学校でどういうふうにチェックすることがとても大事だと思う。今まではさあやってきなさい、やってきましたとハンコウを押して終わりではなくて、むしろそういうところに例えば3番の項目の幼保小中高大の大学生が来て、朝家庭学習でやった学習内容を見てくれるとか、又は地域の方が朝短時間来てそういうものを見てくれるとか、放課後一緒につまずいているところを大学生や地域の方が一緒になって補ってくれるとかそういう体制を一つの家庭学習の達成に結びつくと思います。でするので単なる一つの項目の中で縦割りって考えるのではなくて幼保小中高大の連携の中で学力定着向上を図る。コミュニティスクールで地域の力を借りながら学力定着向上が図れるというクロス横断的なものの考え方をしていくことが大事だなと、そのことがここに挙げている数値の達成に向かっていくと考えています。

平田委員

昨年度、上田市教育大綱ということで皆様が議論をつくして作られたものを拝見させていただいて素晴らしい形になっていると認識させていただきました。今年度 PDCA サイクルに基づいて計画を立てたものを実行していく年になりますけど、現在施策の展開ということで拝見させていただいたんですが、あくまでもこれから制定していくということの大まかな内容であって、まだ具体的なものは何一つ私はここからは捉えることができないので、見える化を具体的にどうしていったらいいでしょうとお伺いされても何とも言えません。私の今の意見になってしまうのですが、ただ今北沢委員からもお話がありましたように、いろんなことを絡めていられるのではないかなという感じはしました。

家庭学習ノートも、大学生、地域の方が見てくれたらというのが一番大事なのかなと思います。実際に子どもはこういう家庭学習ノートをつくっても、実際にその子にやる気がなければやらないというのが親として見ていてあります。ノートから何を楽しくて家庭で勉強していくかというのは学識経験者の方が話し合っていくと思いますが、一点、相違工夫というものを入れていただきたいと私の中にあります。画一的なものではなくて子どもが想像できる、想像豊かに出来る家庭学習ノートであってもいいのかなというのも私の希望であります。

先日、川西小学校に行かせて頂きまして子ども達の姿も生き生きと拝見させていただきました。今年「真田丸」の影響が大きくて休み時間に「真田丸」のテーマ音楽の演奏をしていました。そういうバイタルを通しての勉強ということも影響があると思いますが、それを先ほどの歴史に上手く絡めていけたらいいなと思います。また、子どもたち図書館が新しくなったので子ども達がこんなに本が好きなんだというくらい、その中にマンガ本のコーナーがあり歴史が沢山書かれたマンガ本のコーナーですが、個人的にはマンガ本に疑問もありますけれど、歴史物に関しては、マンガ本という形で勉強するのも有りなのかなと思います。小学校とか小さい時に良い大人に出会うかというのが一番の教育だと思うので、いろんなところで絡めて小さい子どもに大人になるとこんな楽しいことがあると、教えられる教育ができることが私としては一番の希望です。

小林教育長

様々の意見をいただきまして私もこれを見て思いましたが、漠然とした部分もありますが、かなり書き込んでいただいているなという感じはしますので、言葉はかなり豊富にあるように思います。ですからこれがあると必ず動くというふうには思っていますけど、北沢委員さんが言うように子どものためになっているのか、素晴らしい力に繋がっていくのかということを見極めなければいけないことを改めて感じたことと、5年間の計画ですから、1年1年のしっかりとした評価をしていくことが大切かなと思っています。

特に幼保小中高大の連携というのは大きなテーマだと思いますけど、私自身の個人的な意見としては、高校を何とか上手く、高校生議会も非常に素晴らしい機会をつくっていただいたので、保護者の力も何とか取り入れていきたいなという気持ちです。

母袋市長

見える化とともに大切なのは、どの項目で市民協働ができるかということが大事であって市民協働がどこまでできるか取り組み内容ということ資料の中に一覧を造って、学校主体だけでできるのか行政だけでできるのか、やっぱり市民の力が必要だということの色分けをしてもらいたいという要望をします。

それから中身は非常に幅広く新たな視点がてんこ盛りだと思います。今までの教育行政にはなかった視点も多数折り込まれているので、私はこれは総合教育会議の成果が出たと思います。内容は北沢委員も言われた魅力、やっぱりこういったものが上田市の特徴として進められて成果を上げていくことが魅力として評価される、これが大事であるとまず申し上げたいと思います。

具体的に申すと私の立場からということもありますが、せっかくの東京五輪、パラリンピックこれに地域としてどう対応するか、東京一極で終わってはいけません。地方としてどう取り組むか、それは何度も言ってるようにスポーツと文化の融合、これは一つのアイデアです。そういうものを練っていく中で地域の子どもも必ず参加できる、大人も参加できる、これがホストタウンであり文化プログラムにおそらく繋がっていくのだらうと思います。

もう一つ、食品ロスということにおいては、まさに今環境教育というのは小さい子どものうちからやっていくべきだというのが通説になってまいりました。その中で長野・松本・上田のトライアングルの取り組みとして「残さず食べよう30・10(サンマル イチマル)運動」を起こそうということで3市長が合意しました。例えば給食センターあるいは自校給食、それぞれで食品ロス残渣も含めて、縮減をどうできるかということも大事だし、教室ごとには給食の食べ残しの実状も把握したいところです。みなさんが言った家庭、家庭というものはやっぱり家庭だけにまかしてはダメですね。学校での教育の中で子ども達に意識を植え付けてやっていき、こういうことを考えていくとこの環境教育は、食品ロス対策ということにも大きな意味合いを持ってきます。結果的には上田の燃やせるごみの減量化にも結びついていくわけですから幾重にも大切な視点だと思っています。

また、神川地区公民館、上田市として初めて公民館と保育園、多世代交流を生みだす融合だと思っています。これをどう生かすかが一つの目玉にもなりますので、外国特に北欧あたりでは老人ホームと保育園がキッズランド的保育園として合体してるとか、そういうことでの成果もお聞きしていますので、そうした視点も真剣に私は考えてもらいたいし、私どもも考えていきたいなと思っています。

「残さず食べよう30・10運動」は、松本市で食育の推進、生ごみの削減の観点から、「もったいない」をキーワードに、あらゆる世代、家庭や外食時など様々な場面で食べ残しを減らす取り組み。会食や宴会時の乾杯後30分とお開き前の10分は、席を立たずに料理を楽しむことにより食べ残しを減らす運動。

西入政策企画部長

初年度ということになりますので、いろいろいただいた御意見を充分踏まえて、私どもでも内部で検討して中間と年度末に向けて反映したいと思っています。

寺島委員

今まで各学校で「(仮称)私の家庭学習ノート」をそれぞれ作っており、それを教育委員会として統一した形にするということで、成果を挙げる取り組みですが、今まで保護者負担で実施していたそうですので、統一したことにより効果があがるとすれば、是非市で予算化してもらえればありがたいと思います。

もう一つ、市長からもありました30・10運動のことですが、去年は学校訪問の際、給食と一緒にいただいてきました。学校現場とか子ども達のところでは食品ロスが少ないと思いました。食べられる人は食べられない人の分をもらったりして食べ残しが少ないと思いました。実際

あいさつ運動にしてみても、子どものほうが学校へ行くまでにしっかりあいさつをしているし、実態は大人の方ができていない。学校へ子ども達に教育しろと言われても、実際学校の先生とか子どもたちは、全部ではないけどかなり上手く教育できている。大人がうまくできていないと思います。

母袋市長

コミュニティー型スクールとか地域で学校をどうするかということの中で、保護者にきちんとそういうことも伝えていく、実践してもらうそういう場ではあると思います。子どもたちだけではなく、子どもを通して大人にも啓発していくという場であってしかるべきだと思います。

城下委員

私も毎年学校訪問をしていますと、校長先生方がお話されたときに、教育支援プランを受けて学校のグランドデザインをこんなふうにしたとおっしゃる校長先生が増えてきた気がします。是非自信を持ってという言い方も変ですけど、現場でも認識されていますので、しっかり進めていくというのが必要かなと思います。

中村教育次長

支援プランにつきましては二期目ということになりまして、今年は特に目標値ということがあって分かりやすくなったということで、校長会等でも教育委員会から説明申し上げて、確かに学校のほうで上田市の教育支援プランについてかなり理解をされていると思っていますので引続き学校、保護者等にも広めていきたいと思っています。

(2)教育委員会の主な政策課題について

中村教育次長

資料2に基づき説明

- 少子化による学校の小規模化への対応
- 第2期上田市教育支援プランの推進
- 教育委員会組織のあり方
- 信州型コミュニティースクールの推進
- スポーツ施設整備基本構想の策定
- これからの図書館のあり方
- 郷土の文化・歴史・偉人の業績等を知る機会の創出
- 学校給食施設の整備に向けた検討

母袋市長

先ほどの教育大綱の盛りだくさんの他にまだこういう課題があるのだなと思います。8項目をあげてありますが1番目の項目は人口減少。子どもの数の減少ということの中で、今も生まれている子どもさんの見通しは分りますが、将来においてははっきりしない部分もあります。これを受けて学校の統廃合となっていくと非常にデリケートな話です。しかしながら対応しなくて

はいけないということで、県下でも先行して将来の学校数とかを発表しているところもありますけど、今後市としてどうしていくかという方向性は示していかないといけないと感じております。

それから3番目の項目ですが、先ほど部長や次長が話したように、教育委員会のあり方というのが、実際肥大化しているのが現実です。過去二部制という話もありましたが、行政のスリム化を図る中でなかなか肥大化のままの延長はどうなのかという思いがあって踏み切りませんでした。そういう中で先ほどから出ているスポーツ、特に文化のありようというのがいろいろ変化してきている。つまり子どもだけへの教育だけではなく生涯学習という、より広い範囲にも及びつつあり、教育委員会が本来のやるべき仕事から私は離れているというのか、管轄が違ってきているのではないかと思うような動きが出てきています。従って市長部局でどう後に対応できるかという話だと思つたので、この3番目の項目についてはしっかりと今年度検討していくべきであろうと思います。

最後に7番目の項目を見てみますと、まさに今いる子どもがあるいは将来生まれてくる子どもが、この地域をどう誇りを持てるかという原点の話だと思います。このふるさと人物伝、あるいは今の「真田丸」こういったものを契機にしっかりと事業の中に、地域の偉人から始まって文化歴史を支えられるような事業などを、平日に出来なければ土曜日にやるくらいの意気で子ども達の学びの部分で植えつけられないか、こんなことを感じております。

小林教育長

喫緊のものとしては1番目の事項は教育委員会としても、重要な課題だと考えているところです。今、市長からも出ましたが、将来的に長いスパンで見ると、やがて人口がヨーロッパのように極度に減るのではなくて、人口維持していくような社会というのは必ず来るとは思いますけど、そういう中でふるさとを大切に、そのふるさとで生きていく子供達を育てるといふような意味は重要ですので、教育委員会としても今年は「真田丸」で大切な財産をいただくことになるとは思いますけれど、そういったものをこれからどう引き継いでいくのか大きな課題と捉えているところでありますので、このへんも今御指摘いただいたようにしっかりやっていかなければいけないなということです。

教育委員会の組織のあり方についても、これについては教育委員会としての考え方というか、一つの流れという中でもじっくり検討させていただいて、こういうところはあるところがあれば教育委員会としても議論していかなければいけないということで、これは総合教育会議の中でしていただければと思うところでございます。

後は教育委員会として大事なものということで特に支援プランについては、しっかりやっていかなければいけないなと思っています。

城下委員

政策課題というところですけど、これらは急に出てきた課題ではなく、今までにポツポツと出てきて出ては消えという所がありますけど、そんな感じで議題にはのぼっていた項目です。その時に議題として上ってはいても、それが時系列で縦に繋がってこなかったというところで置き去りにされてしまったかなと思います。

8項目どれも重要であり、去年一年間、総合教育会議は大綱を決める一年間であって、二年目からは大綱も決まったところからのスタートとなり、この総合教育会議の真価が問われる時である気がします。課題が分かっているので、絵に描いた餅にならないように着実に一

一つ一つ積み上げていかねばいいかなと思います。

その中で市民の方を置き去りにしない、市民には子供たちも含まれていますけど、学校教育に関して主役は子どもというところを忘れずに、そこをないがしろにして市民の方も置き去りにして進んでしまいますという波風も立ちますし、そのところはご苦労も多いかと思いますが丁寧に進めていくというのが大事かと思います。

私たち具体的にすすめていく人が、ここにはこういう事をすれば子ども達の幸せに繋がるという事をしっかりPRして、お金をかけないと出来ないことだらけですので、しっかりお金をかけるところはお金をかけ成果を挙げていかないといけないと思います。

寺島委員

1番目の少子化対策ですけど、単なる学校の統廃合という問題ではなく、避けては通れない問題として必ずくるので先送りしないでできるだけ早目に検討に着手するということを望みます。3番の項目の組織のあり方ですが、組織や仕組みを手直しするときに当事者の利害関係というのが出てきますけれど、行政の組織なので市民にとってどういう形が良いかを、組織については見てほしいと思います。

5 その他

今後の予定

西入政策企画部長

2回目の会議を中間報告として10月頃、3回目の会議を年度末報告として3月頃それぞれ開催したいと思います。

6 閉会